

長坂有希 プロジェクト(1)(2)

アーティスト、広島市立大学芸術学部講師、香港城市大学クリエイティブ・メディア学科博士課程研究員。個人的な出会いと協働を通して、さまざまな人や生き物、ものたちが守り続けてきた知恵や技術、物語や歴史について学ぶことに関心を持っている。また、活動から得た彼ら・彼女らの声や世界観や、うまく機能していないように見える社会的、政治的、環境や生態学的な構造への疑問をストーリーテリングを用いて表現し、個人の日々の思考や行動のレベルからどのような変化をもたらすことができるかについて考えている。

福田恵 プロジェクト(3)

安田女子大学家政学部造形デザイン学科講師。Yellow River Collegeメンバー。大学終了後ドイツに留学。ベルリンを拠点に様々な国際文化交流事業に作家として選出される。国内外での個展、グループ展、レジデンス招聘多数。現在、広島を拠点に芸術文化を担う次世代の教育活動にも携わりながら、表現媒体や分野にとらわれず、記憶、場の固有性と密接な作品を手がけている。

Yellow River College - イエロー・リバー・カレッジ

安芸高田市にある空き家改修計画を契機に2021年に結集した、アーティスト、デザイナー、建築家等によるアーティスト・コレクティブ。人間の自然との関わりや風土の中で生まれ育つ生活様式・価値観など、およそ人間と人間の生活に関わる総体を広義の「文化芸術」と捉え、その文化芸術を通じ、芸術文化の振興と地域社会の発展、新たな枠組み・価値観の創出、また、その担い手となる人材の育成、ネットワークづくりを目的に活動している。地球環境が急速に変動し、作り手が担う役割が問われている現代において、安芸高田市の空き家を思想的実験・実践の場として活用するための方法について、多種多様な論考と実験を重ねる。

プロジェクト連携団体

- 吉勝制作所
- Yellow River College - イエロー・リバー・カレッジ
- Reflecting Hiroshima - リフレクティング・ヒロシマ
- 一般社団法人 River Do! 川辺コンソーシアム
- 広島湾岸トレイル協議会
- SATOMACHI
- アートギャラリーミヤウチ・公益財団法人みやうち芸術文化振興財団
- タメントイギャラリー

運営

- 事業代表：石谷治寛
- 運営スタッフ：河田百代、村上明花里
- 広島市立大学地域共創センター：北野慎太郎、近本佳子
- デザイン：増田純

令和7年度 大学における芸術家等育成事業

「ひろしまアーツカレント 里山と川辺の複数種共有空間を開いて、ハイブリッドな学びの場を創発する」
主催：広島市立大学

お問い合わせ先 広島市立大学地域共創センター(研究推進・産学連携グループ) TEL: (082) 830-1764 E-mail: hach_info@icloud.com

石谷治寛 プロジェクト(2)(6)

広島市立大学芸術学部准教授。十九世紀フランス美術と視覚文化やアナキズムに関する学術論文を発表。外傷記憶を扱う現代芸術に関する論考多数。また、メディア芸術の保存とアーカイブに関するプロジェクトにも取り組んできた。広島では都市への芸術介入を調停する人材育成を目指すHACH(広島芸術都市ハイヴ)の運営をはじめ、文化メディエーションについて考察している。

藤江竜太郎 プロジェクト(4)

広島市立大学芸術学部准教授。これまで自らの心の拠り所として、自然との対話を目的とした活動を続けてきた。アートの概念にとらわれることなく、素直な気持ちのまま自然と向き合い、自然を受け入れ、自然と遊ぶ。その行為から感じられる喜びや感動を、私が生きる証として存在させたいと願っている。これらの概念を基に、より健康的な街づくりに役立つ仕組みづくりを創造的に行う。

吉田真也 プロジェクト(5)

リフレクティング・ヒロシマプロジェクトメンバー。アーティスト。秋田公立美術大学と東京藝術大学大学院で学んだのち、現在は広島県を拠点に活動している。現実とフィクションの境界を横断しつつ、文化的、歴史的な変遷を経て形成されていく土地固有の営みに着目し、個人と土地との間で折重なる複数の記憶を呼び覚ますような作品を制作している。

Reflecting Hiroshima - リフレクティング・ヒロシマ

広島の地で異なる分野で活動するアーティスト、ダンサー、アートマネージャーらが相互に関わりながら、対話を通じた表現活動を行うことを目的とした共同体。(I)死者や他者と出会い直す(II)場所性の回復(III)歴史への応答、を軸に様々なプログラムの実践を行う。

令和7年度大学における芸術家等育成事業

ひろしま
Hiroshima
アーツ
Arts
カレント
Current

6.2025
23 (月)

12:30 開場
13:00-14:30

広島市立大学 講堂小ホール
広島市安佐南区大塚東3丁目4-1

各プロジェクトの代表教員、講師を迎え、それぞれの取り組みと講座で目指すものについて話します。活動内容と事業全体の展望について討議することで地域のローカルな課題を認識し、これまでの実践や知見を共有します。

キックオフ
シンポジウム

入場無料

登壇者
石谷治寛 (広島市立大学芸術学部准教授)
長坂有希 (広島市立大学芸術学部講師)
福田恵 (Yellow River College)
藤江竜太郎 (広島市立大学芸術学部准教授)
吉田真也 (リフレクティング・ヒロシマ)



シンポジウムのお申込みはこちら
<https://forms.office.com/r/6YjVYyTiHy7>

里山と川辺の複数種共有空間を開いて、ハイブリッドな学びの場を創発する

広島は、太田川の水系を産業文化の基盤として、近代的な街づくりを発展させてきました。その空間のエコロジーと歴史を調査しながら、大学キャンパスや山間部の川辺にある古民家、都市の中の川辺や里山、デジタル・アーカイブを共有空間として活用する文化芸術活動の実践を通して、未来の学びの場を開きます。6つのプロジェクトでは、それぞれ固有の自然環境に根ざしながら、アートと場づくりの実践に取り組んでみたい受講生を募集します。芸術家やデザイナーや写真・映像作家らが、地域の文化・自然資源を育む実践者、農家、地質学者、建築家、エコロジー実践者、市民団体メンバー、ギャラリスト、アーキビストらとの共働を通して、100年後の未来を見据えた循環型で複数種共生が可能な場所づくりについて、ともに考え、学んでいきます。異分野との協働の学びや作業に取り組みたい方の参加をお待ちしています。



(1) キャンパスにアートと複数種の共生空間としての里山を創造する

プロジェクト代表：長坂有希（アーティスト / 広島市立大学芸術学部講師）

大学の空き地を活用し、土や生物と共生する農空間を創出します。植生や地形・地質をアートの視点で再認識し、**共生型の里山を大学キャンパス内で育む**ことを目指します。

何を学ぶの？ 異なる分野の専門家や実践者とのワークショップを行い、アートの視点からディスカッションやリサーチを深め、エコロジカルで複数種が共生することを促す作品制作や未来を構想します。

参加要件 下記プログラムを1年を通して受講できること
定員 8名（学生、一般、広島県内外を問わず）
実施場所 広島市立大学キャンパスと大学周辺地域

講座内容	フィールドワークを通してキャンパス周辺の地形と地質について学ぶ 1日間(7月12日) 講師：熊原康博(自然地理学 / 広島大学大学院人間社会科学研究科教授)	フィールドワークを通してキャンパス周辺の植生について学ぶ 1日間(8-10月予定) 講師：吉田晴彦(国際関係論 / 広島市立大学国際学部教授)、地元の農家さん	植物・土・鉱物などの採集物を使って、特殊印刷を行う 3日間(11月1日、2日、3日) 講師：吉田勝信(採集者・デザイナー・プリンター / 吉勝制作所)	農空間予定地での活動成果発表展と講評会 10日間(2026年2月6日~15日) 講師：石倉敏明(芸術人類学・神話学 / 秋田公立美術大学准教授)、石谷治寛(広島市立大学芸術学部准教授)、長坂有希(アーティスト / 広島市立大学芸術学部講師)
------	--	---	---	--

(2) 『自然を脱植民地化する』を読む

プロジェクト代表：石谷治寛（広島市立大学芸術学部准教授）、長坂有希（広島市立大学芸術学部講師）

『自然を脱植民地化する』の粗訳を基にした、**公開オンライン勉強会**を実施し、国際的なエコロジー芸術の理論と考えを学び、議論します。

何を学ぶの？ 国際的なエコロジーとアートの動向と、専門的な考え方や用語を学びます。

参加要件 英語のテキストを読むことを通じて、エコロジーとアートに関して議論することに関心があること

定員 なし(どなたでも参加可能)

実施場所 オンライン開催

講座内容	T・J・デモス著『自然を植民地化する：現代アートとエコロジーの政治』の粗訳を通じたディスカッション 全7回を予定 講師：石谷治寛(広島市立大学芸術学部准教授)、石松紀子(広島市立大学芸術学部准教授)、古堅太郎(広島市立大学芸術学部准教授)、長坂有希(広島市立大学芸術学部講師)
------	--

(3) 空き家の解体と合体。枠組みから外れた余剰分を、再び生活圏へ呼び戻す

プロジェクト代表：福田恵（Yellow River College / 安田女子大学家政学部造形デザイン学科）

Yellow River College 連携プロジェクト。**古民家の廃材を再利用しながら循環型の場所づくり**を学び、資材や施工法を理解し、空間デザインや作品に活かせる創造力を育む実践を行います。

何を学ぶの？ 廃材のリサイクルや、エコロジカルな建材や施工方法を学習し、空間デザインや作品へと発展させることのできる知見や発想力を養います。

講師：内野康平、内野いずみ、近藤有季、福田恵、藤井宏水、本間美穂子（Yellow River College）

参加要件 2つの講座、それぞれを複数回通じて受講できること。両方参加も可能です。

定員 15名(どなたでも参加可能)

実施場所 広島県安芸高田市吉田町、甲田町など

講座内容	分解と循環を考える（コンポスト実践ワークショップ） 2日間(8月22日、10月21日) 広島県安芸高田市甲田町などで開催	地域資源と廃材を、エコロジカルな建築資材として応用する（土間たたきワークショップ 廃材救出編～施工編） 3日間(7月11日、9月20日、10月22日) 広島県安芸高田市吉田町、甲田町
------	--	---

★広島市立大学から横川駅と安田女子大学を経由した送迎バスを予定

(4) 広島市における自然環境の活用方法を体験し、その賑わいをつくる

プロジェクト代表：藤江竜太郎（広島市立大学芸術学部准教授）

広島市の自然と共存する歴史文化を市民団体から学び、現地調査を通じて芸術的関わり方を模索します。都市と自然をつなぐ創造的な人材を育成します。

何を学ぶの？ 自然環境を軸に都市形成におけるクリエイティブな活動をフィールドワークやイベント企画を通して身につけます。

参加要件 広島市立大学の学生であること
定員 10名 各ワークショップごとに募集
実施場所 広島市立大学、太田川河川、比治山など

講座内容	広島市の川(太田川)ワークショップ 4日間(6月、7月、9月-11月) River Do!と連携し、太田川の歴史や風景の調査・撮影を行う。 河川イベントでの展示・発表を企画運営 する。	広島市の里山(広島南アルプス)ワークショップ 3日間(6月、7月、10月、2月) 広島湾岸トレイル協議会と連携し、里山のトレイル体験や整備を学習。 風景の記録や魅力を伝えるグッズの試作 を行い、関連イベントでの発表を目指す。	広島市の里山(比治山)ワークショップ 3日間(6-8月) 比治山を拠点に活動するSATOMACHIの取り組みを学び、 子ども向け自然体験ワークショップの企画運営 を行う。
------	--	---	--

(5) 太田川を遡上して、その文化と歴史を響かせ映す

プロジェクト代表：リフレクティング・ヒロシマ

前田耕平「雁の便り」プロジェクト。広島でかつて盛んだった舟運で使用された「雁木」に焦点をあて、**太田川を舞台としたパフォーマンスプログラム**を展開させます。

何を学ぶの？ パフォーマンス制作や記録を通じて表現技術と実践力を養います。
講師：前田耕平（リフレクティング・ヒロシマ）

参加要件 広島や太田川にゆかりのある人・芸術や映像表現に興味がある人
定員 受講生の募集は締め切りました
実施場所 太田川流域、雁木

講座内容	月1ワークショップ 6月-8月	パフォーマンス本番 9月 ★当日の見学を歓迎します。	成果展(タメントイギャラリー) 10月
------	--------------------	----------------------------------	------------------------

(6) 自然・文化芸術資源の記憶にアクセスし、利活用する

プロジェクト代表：石谷治寛（広島市立大学芸術学部准教授）

アーカイブ資料を、創作へ利活用する方法を学びます。また、文化芸術資料を共有の**デジタル・アーカイブ・システムへ整理・登録**するために、それぞれの専門性を活かした協働作業を行います。

何を学ぶの？ デジタル・アーカイブ・システムを、情報検索・保管のツールとして活用し、創作や資料展示に活かすための初歩的な理解を目指します。

参加要件 2つの講座で、それぞれ受講生を募集する。創作者だけでなく、地域や文化芸術資料に関わる人、アーキビスト、情報技術者などの参加を期待しています。

定員 各ワークショップごとに募集

実施場所 受講生に連絡します

講座内容	アートとデザインを通じた写真資料の編集的活用を考える 4日間を予定(8-11月) / 定員12名 講師：鹿田義彦（安田女子大学家政学部生活デザイン学科助教）
講座内容	AtoM Hiroshima ハッカソン 2日間(11月8日、9日) / 定員15名 講師：松山ひとみ(大阪公立大学都市科学・防災研究センター客員研究員、独立行政法人国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センターアソシエイトフェロー、神戸映画資料館研究員)